

# 2020年度第1四半期決算説明テレフォンカンファレンスサマリー

(2020年8月7日開催)

## (1) 2020年度第1四半期 決算概要 (前年比) 単位: 億円

①売上高	762	△147	数量減△91・販売価格差△55
②営業利益	44	△23	
数量要因	△34		新型コロナウイルス感染症影響△25、クロロプレンゴム等△9
スプレッド改善	+ 8		原料他 +57 > 売価 △49
為替影響	△ 3		売価 △ 7 > 原料他 + 4
その他コスト要因	+10		その他本社費・製造費等
先行投資負担等	△ 3		研究開発負担増等
-----			
要因別内訳 計	△23		

①売上高 新型コロナウイルスの影響による需要減、原材料価格下落に応じたスチレン系製品販売価格改定のため減収

②営業利益 数量面では、新型コロナウイルス感染拡大の影響などにより販売数量が減少し、34億円の減益。しかしながら、スプレッドは、原材料価格の下落に対し、販売価格の維持に努めたことなどから改善、コスト面でも、本社費・製造経費等の固定費が減少したことから、前年比23億円減益の44億円となった。

## (2) 2020年度上期 業績予想 (前年比) 単位: 億円

2020年度上期の業績予想を開示 (期初では非開示としていた)。

通期の業績予想については、新型コロナウイルス感染症の再拡大の恐れもあり、先行きの不透明感は依然として残るが、5月に開示した期初予想を据え置く。

(4-9月) (前年比)

売上高	1,600	△320	数量差△196、販売価格差△123
営業利益	120	△ 33	数量差△ 67、販売価格差△123、コスト差等 + 157
経常利益	120	△ 25	
当期利益	100	△ 9	

## (3) 通期業績予想の考え方

(期初予想)

・期初予想では、新型コロナウイルスの影響について、「第2四半期以降徐々に収束、下期は正常化」と想定。

(期初予想からの増減要因)

〈下振れ〉

・クロロプレンゴムなどの一部主要製品では、上期は期初の想定を上回る新型コロナウイルス感染拡大の影響。  
・下期も新型コロナウイルスの影響を受ける可能性。

〈上振れ〉

・溶融シリカ、高機能フィルムなどの半導体関連製品は、5G関連・データセンター需要拡大。  
・本社費、工場固定費の見直しによる寄与。  
・新型コロナウイルス簡易検査キット販売による寄与は、現時点では未織込。

〈想定通り〉

・球状アルミナ、アセチレンブラック、セラミック回路基板などのxEV関連製品については、中長期的な車両電動化のメガトレンドは継続、今年度後半の伸長を見込む。  
・2020-2021年シーズンのインフルエンザワクチンは、概ね前年並みの想定。

非常に厳しい外部環境ではあるが、Denka Value-Upの成長戦略を強力に推進し、また、生産性向上を目的として、7月に策定した働き方改革の全社方針を定着させることで、『真に社会に必要とされる企業』を追求し、全社一丸となって、期初予想の達成を目指します。

デンカ株式会社

## (4) 株主還元

2020 年度配当予想：中間 60 円/株（期初では未定としていた）

期末 未定（新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、業績が大きく変動する可能性もあるため）

「総還元性向 50%を基準とする」方針に変わりなし

## (5) 質疑応答

### ① エラストマー・機能樹脂の需要状況と見通し

- ・ 当第 1 四半期のクロロプレンゴムの需要動向は厳しいものとなったが、6 月以降に回復の兆しが見られた。今後の見通しは不透明感が強いものの、一定程度以上の需要回復を想定している。
- ・ 価格維持方針に変更はない。クロロプレンゴムは特殊ゴムであるという位置付けである。
- ・ スチレン系樹脂製品では、当第 1 四半期の原料価格の下落に対し、販売価格への波及が一部上期は踏みとどまっており、スプレッドとしては改善。

### ② インフラ・ソーシャルソリューションの見通し

- ・ 当第 1 四半期において、特殊混和材など工事受注が若干遅れているものがあり、またセメントのリサイクル受入についても、一部落ち込んでいたが、7 月以降は回復を想定している。

### ③ 電子・先端プロダクツの需要状況と見通し

- ・ 当第 1 四半期では、半導体搬送用部材の高機能フィルムなどで、サプライチェーン混乱の予測から安全在庫確保の動きが一部ユーザーであったが、足元では平準化している。
- ・ xEV 関連の超高純度アセチレンブラック、球状アルミナについて、当第 1 四半期では、世界的に自動車工場の稼働率が低下したことにより、需要が弱まったが、足元では、ヨーロッパ、中国等で回復してきており、下期に向けて需要は高まってくると想定している。

### ④ ライフイノベーションの見通し

- ・ 今年度のインフルエンザワクチンの出荷は、前年並みを想定。  
医師会等では、早期のインフルエンザワクチン接種を推奨しており、当社としても、昨年以上に 9 月中の前倒し出荷を対応中、上期の業績予想に織り込んでいる。
- ・ 検査試薬では、炎症マーカーが中国において、一部病院へ足を運ぶことを控える動きなどから期初の想定は下回る見通しだが、一定の需要があり、通期で昨年を上回る出荷を見込む。
- ・ 新型コロナウイルス簡易検査キットについて、生産能力として最大 1 日当たり 10 万検査分（1 万キット）ではあるが、国内における現在の感染者数をみれば、現時点、需要はそれほど大きな規模とはならないと想定。
- ・ 当社の簡易検査キットがメインとするクリニック開業医等への拡大がポイントとなる。

（参考）テレフォンカンファレンス後、2020 年 8 月 11 日リリース

「新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの国内製造販売承認を取得～「クイックナビ™ -COVID19 Ag」として 8 月 13 日から医療機関へ販売開始～」

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/758/20200811\\_denka\\_quicknavi\\_covid19ag.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/758/20200811_denka_quicknavi_covid19ag.pdf)

### ⑤ その他

- ・ 当第 1 四半期では、前年に比べ、在庫数量が増加しているが、新型コロナウイルスの影響により出荷が落ち込んだ影響がある。  
当社は前期末に比べ、在庫数量が増加する要因として、例年、第 1 四半期は水力発電の稼働が高く、低コストでカーバイドチェーンの製品を製造できることから、一定の生産数量を確保する当社特有の季節要因がある。また、インフルエンザワクチンの製造開始による増加も含まれる。  
7 月以降、適正レベルに減少する方向であり、業績に与える影響は大きくない。

以上